実践情報セキュリティとアルゴリズム 第二回課題

28G23027 川原尚己

実装内容：

eval.rsにおいて実装した部分を図１に示す．

モニター画面に映る文字

自動的に生成された説明

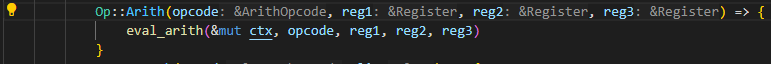


図１-１　eval.rs実装部分（eval\_arith）

テキスト

自動的に生成された説明

図１-２　eval.rs実装部分（eval\_cmp）

eval\_arithに関しては，2,3番目のレジスタに格納されている値を読み込んだ後，各種四則演算を1番目のレジスタに書き込んでいる．

eval\_cmpに関しても，２つのレジスタに格納されている値を読み込んだ後，それらの大小関係によってctx.condに適切な値を代入している．

example/ex1.S,ex2.Sに対する実行結果を図２に示す．

テキスト

自動的に生成された説明

図２-１　ex1.Sに対する実行結果

テキスト

自動的に生成された説明

図２-２　ex2.Sに対する実行結果

いずれの場合でも想定されたとおりに動作していることがわかる．

また，自身で用意したテストコードex3.Sを図３に，その実行結果を図４に示す．

テーブル が含まれている画像

自動的に生成された説明

図３　ex3.S

テキスト が含まれている画像

自動的に生成された説明

図４　ex3.Sに対する実行結果

ex1.S及びex2.Sにおいては，eval\_arith，eval\_cmpで実装した部分に関することのうち，”add”，”mul”，”b.lt”について動作を確認したため，ex3.Sにおいては残りの”sub”，”div”，”b.gt”，”b.eq”について確認を行った．

実行の結果，いずれのコマンドについても想定の通りに動作していることが確認できた．